

JR東労組が「ベアの『原資の配分方式』」等に関する考え方について、会社との団体交渉のやりとりの一部分を都合良く切り取り、会社があたかもJR東労組の主張内容を汲む考え方を示したことを確認(=認識の一致)したと喧伝し、スト権行使指令解除の理由に用いていることは、既報のとおりである。一方で、民主化闘争情報No.981で紹介した、JR東労組大宮地本の発した「悩みと苦しみの中で日々奮闘する、大宮地本全組合員のみなさんへ」では『職場では「永久根絶はどこに行ってしまったのか」「格差ベアは無くなったと中央闘争委員会情報に出ているが、その根拠が説明できない」「会社の掲示と組合の掲示どっちを信じればよいのか」等の不信感を克服できていません。』という実態が紹介されている。まさしく多くの組合員が、JR東労組の支離滅裂な「スト権行使指令解除」の理由に係る主張に疑念を抱いている。

JR東労組が「スト権行使指令解除」の理由としている 労使間の『認識の一致』は事実と反する！

会社は、2月25日及び27日付で発信した社内向けの「勤労速報」で、JR東労組の言う労使間の『認識の一致』を全否定している。文量の関係から全ては紹介できないが、あらためて一部を抜粋して比較してみよう。こうして見れば、『ベアの配分方式等に関する『認識の一致』』が無いことは明らかであり、JR東労組が会社側の回答の一部を切り取り都合よく悪用したことが分かる。なるほど、JR東労組がこのような事実と反する『喧伝』をすれば、労使の信頼関係は喪失するはずだ…。

◆「ベアに対する考え方」＜会社の「勤労速報（2月27日付）」より抜粋＞

JR東労組の主張内容	会社の主張内容
○ベアの実施にあたっては、これまでベースアップの算出基礎にしてきた『 <u>所定昇給額</u> 』にこだわらない。	○昨年からの回答しているとおり、ベアの実施方法について、 <u>所定昇給額により職責の重さを反映させる手法にこだわるものではない。所定昇給額により職責の重さを反映させる手法によりベアを実施することはある。</u>
○「生産性向上分」などについて、「その算出にあたっては『 <u>所定昇給額</u> 』にこだわらない」	○ベアの要素は「 <u>物価上昇分を考慮した生活維持向上分</u> 」に限らず、 <u>生産性向上の成果配分が最も基本的な考慮要素</u> である。また、ベア要素を分解して「 <u>生産性向上分</u> 」を切り分けることはできないし、 <u>物価上昇分の影響の度合いは全員一律ではない。</u>
○「ベアの要素」については、「ベアは、物価上昇分を考慮した生活維持向上分であり、それは誰にも等しくある」	○一方、基本給の水準自体を改定するベアと基本給を補完する手当には性質の違いがあることは認識しているが、 <u>職責は基本給の大きな構成要素の一つであり、基本給の水準自体を改定するベアにおいても、職責が重要な要素であることについてはこだわる。</u>
○「ベアと手当の性質は違う」という議事録確認をベースに、「合理的」かつ「誰もが公平感を持てる」ものは「格差」とは考えない。	○ <u>職責のほか、職能、資格・等級、年齢に応じた生計費水準等に応じて、社員間でベアの金額に違いが生じることはあるが、それは合理的な差であり、組合が主張する「格差」ではない。</u> ○「公平感」ではなく、「公平性」「納得性」を考慮する。